

ヲ定ムト雖モ與行淺クシテ其間數制限ニ滿テ難キ
 場所ハ適度ニ隨テ表口ノ間數ヲ増シ且與行ノ間數
 其制限ニ過クルモ土地ノ形勢ニ因リ他ノ障礙ヲ為
 サルモノハ之ヲ許スヲアルハシ

開
 打
 何

第一號 収租地々券雜形

地 券

何國何郡何村何番地

開
 収
 印

何字何

何國何郡何村

大 耕地

何段何畝步 持主

日 宅地

苗 字 名

本 何千何百何拾何坪

帝 海産干場

國 代價何程

改 此百分ノ一

府 金何程

地 租

右檢査之上授與之

〔本支廳在勤長官〕

年 月

官 苗 字 名 印

開
 打
 何

同裏

日本帝國ノ人民此土地ヲ所有スルモノハ必ス此券狀
ヲ有スヘシ
日本帝國外ノ人民ハ此土地ヲ所有スルノ權利ナキ者
トス故ニ何等ノ事由アルトモ日本政府ハ地主即チ名
前入ノ所有ト認ムヘシ
日本人民ノ此券狀ヲ有スルモノハ此〔土地ヲ過意ニ所
用シ又ハ〕海産干場ノ地券ハ土地以土地ヲ所有シ得ハ
キ權利アル者ニ賣買讓渡實入書入スルヲ得ヘシ
賣買讓渡實入書入等ヲナサレトスルモノハ渾ク其規
則ヲ遵守スヘシ若其規則ニ因ラスレテ此券狀ヲ有ス
ルトモ其權利ヲ得サルモノトス

第二節 官用地々券雛形

地券

何國何郡何村何番地

開拓
依仰

何院省

此坪何坪

官用地

此地代金何程

右地所檢査之上相渡置候也

〔本支廳在勤長官〕

年月

官苗字名印

開拓使

第三號 除租地之券雛形

地券

何國何郡何町何番地

伏聞
印拓

字何

大 耕地何段何畝步

何國何郡何町

持主

日 本 宅地何百何拾何坪

苗 字 名

帝

明治何年ヨリ至何年迄何年間除租

政

府

右檢査之上檢査之

本支廳在勤長官

年 月

官苗字各印

周知使

同裏

日本帝國ノ人民此土地ヲ所有スルモノハ必ラス此券
狀ヲ有スヘシ

日本帝國外ノ人民ハ此券狀ヲ所有スルノ權利ナキモ
ノトス

日本人民ノ此券狀ヲ有スルモノハ土地ヲ所有シ得ハ
キ權利ヲルモノニ賣買讓渡質入書入スルヲ得ヘシ
除租滿期ニ至リ書替ヲ願出スニテ此券狀ヲ有スルモ
ノハ土地所有ノ權利ヲ失フモノトス

第四節 貸地證書雜形

地所々用ノ名目

何國何郡何町村

借用人

苗字名

貸地之證

開拓使
本支廳
印

何國何郡何町村
何岸何番地

何百何拾何坪

地價金何程

此百分ノ一

金何程 一ヶ年借地料

此土地附屬ノ地所ヲ賣買讓渡スルトキハ必ス

ス此證書ヲ返納スヘシ

此證書ハ賣買讓渡質入書入スルヲ禁ス

割印

開拓使

此地所入用ノ節ハ何時ニテモ返地セシムル
アルハニ

乙第二十五號

昨明治九年^{十月十二}第百六拾壹號ヲ以テ北海道地租ノ義
御布告相成候ニ付テハ土地丈量地價査定ノ上一般地
券ヲ發シ地所規則除租ノ年限ニ隨テ地租ヲ課シ従前
發行セシ地券ハ之ヲ改メ且既ニ課シ來リシ地租モ自
今總テ地價百分ノ一ヲ徵スハキニ付地所ノ區分制限
及ヒ地券申請証印稅収納等ノ義尤ノ條款ノ通相定候
條此旨布達候事

明治十年十二月十三日

開拓長官黑田清隆

第一條

地所ハ其種類ヲ分テ宅地耕地海産干場山林牧場ト
ス

但北海道地所規則ニ掲載セル澳濱昆布場ヲ自今

改メテ海産干場ト稱スヘシ

第二條

耕地宅地ハ何人ニ拘ハラズ之ヲ所有セシノ海産干場ハ海産採取ノ業ヲ営ムモノニ非サレハ之ヲ所有セシノ山林川澤原野河岸海岸等ハ總テ官有地トシ其差支ナキ場所ハ望ニ因リ貸渡シ或ハ賣渡スルアルヘシ尤官有地ヲ貸渡ストキハ貸地證書ヲ附與シ貸地料トシテ地價百分ノ一ヲ取立ヘシ

但海産干場ハ所有者ノ都合ニ依リ他人ハ貸渡シテ營業セシムルハ妨ケナシトス尤貸渡ストキハ必ラス其事由ヲ具シテ願出ヘシ又本條河岸海岸等自費理立或ハ既ニ民有ニ屬セシモノ、類ハ之ヲ私有セシムルヲアルヘシ

第三條

牧場ハ各郡村ニ於テ其經畧步數ヲ定メ官有地第三種ニ編入シ官民共同ノ用ニ充ツヘシ尤入民牧畜營業ノ為メニ要求スル地所ハ右ノ外ニ其經畧步數ヲ定メ貸渡シ或ハ賣渡スルヲアルヘシ

第四條

道路狹隘ニシテ往來運輸ノ障礙ヲ為スモノハ家屋倉庫等ヲ管構セル地面ト雖モ必ラス貸地ト為スヘシ尤土地ノ形勢ニ因リ道路敷地ノ内ヲ貸渡シ置クヲアルヘシ

第五條

租額ハ歲ノ豐歉等ニ因テ之ヲ變更スルヲナシト雖モ天災地變ニ因テ地形變換スルトキハ實地ヲ點檢シ

開
林
使

減租或ハ除租等ノ處分ヲ為スヘシ

第六條

各種ノ地所除租収租ノ別ナク地券附與ノ後ハ該地ノ全部或ハ其幾分ヲ裂キ賣買讓渡書入賃入等總テ其規則ニ照シ所有者ノ自由タルヘシ

但地券發行ノ後収租地賣買ノ際地價増減ヲ生スルモノハ明治七年正月第五十三號御布告ニ照準スルモノトス尤海産干場ハ一券面ノ地所ヲ裂テ之ヲ賣買讓渡スヘカラス

第七條

明治九年十月澳場更正ノ際一旦土地申付更ニ割渡シタル海産干場並除租年限中賣買讓渡セル各種地所ノ除租年限ハ最初定メタル年ヨリ通算假令ハ除租七年ノ

地ヲ五年目ニ賣買スルトキハ買受タルモノ其買ス得タル年ヨリ三年間除租四年目ヨリ收租ノ類

第八條

地券ハ地所々有主タル確證ニ付大切ニ保存シ代替賣買讓渡及ヒ水火盜難等ニテ亡失セントキハ速ニ其事由ヲ具シ書替ヲ願出ヘシ

第九條

除租地所有ノ者ハ除租満期ノ年六月三十日マテニ最前申請ケル券狀ヲ差出し收租ノ券狀ト引換ヲ願出ヘシ

第十條

新規書替トモ地券及ヒ賃地證ヲ申請ケシトキハ必ラス請取証書ヲ差出スヘシ

第十一條

收租地地券新規申請及賣買ニ付書換ノ節ハ券面ノ
 地價ニ隨ヒ每一枚証印稅トシテ尤ノ通相納ムヘシ
 地券ニ記セシ地價

式圓迄

金八匁

二百圓以上

金壹錢五匁

式百圓以上

金貳錢五匁

式百圓以上

金三匁三錢

五百圓以上

金四匁貳

千圓以上

金五匁貳

式千圓以上

金八匁三錢

五千圓以上

金壹圓貳拾五匁

第十二條

除租地地券新規申請及賣買讓渡等ニ付書替及ヒ收

租地代替授與水火盜難等ニ付書替ノ節ハ証印稅ト
 シテ每一枚金八匁ヲ納メ貸地証書新規申請及書替
 ノ節ハ手数料トシテ金八匁ヲ納ムヘシ

第十三條

海産干場ハ海産採取ノ為メニ所有セシムルモノナ
 レハ營業ノ差等ニ隨テ地所坪數及ヒ間數ノ制限ヲ
 定ムル大畧尤ノ如シ尤其制限ハ土地ノ形勢ニ因リ
 之ヲ増減スル下アルヘシ又舊來戸口調密ニシテ此
 制限ニ循ヒ難キ場所ハ従前ノ慣習ニ依リ之ヲ所有
 セシムル下アルヘシ且該地ノ形ヲ變セス鮮場ニ於
 テ鮮場ニ於テ鮮其他ノ漁業ヲ営ム等ノ類ハ總テ
 營業者ノ自由ナルヘシ

鮮場建網

一統ニ付

千坪

海面表口五拾間
 與行北間

間

鯿鰯鮭引網 一統ニ付 千五百坪

海面表口 六松間
奥行 北五間

鯿差網 十枚ニ付 貳百坪

海面表口 六松間
奥行 北五間

鮭建網 一統ニ付 五百坪

海面表口 六五間
奥行 北五間

大房網 一統ニ付 陸

陸 陸

昆布刈船 一隻ニ付 四百五拾坪

陸 陸
六五間
六八間

但一區ノ干場ニ於テ網敷統船敷隻ヲ用ヒテ營業スルモノハ一統或ハ一隻毎ニ制限坪数ノ半ヲ増加シ鯿差網ハ十枚毎ニ其四分一ヲ増加ス

第十四條

干場坪数ノ制限ハ前條ノ割合ヲ以テ之ヲ定ムト雖モ奥行淺クシテ其間敷制限ニ滿テ難キ場所ハ適度ニ隨テ表口ノ間敷ヲ増シ且奥行ノ間敷其制限ニ過

クルモ土地ノ形勢ニ因リ他ノ障碍ヲ為サ、ルモノハ之ヲ許スナアルベシ

第十五條

海産干場ノ海岸地浪打際滿潮ノ時ヨリ五間乃至十五間ハ之ヲ官有地トシテ干場所存ノ者ニ貸渡シ山岳等海濱ノ突出シ土地狹隘ニシテ右間敷ノ外私有セシムハキ餘地無之場所ハ總テ官有地トシテ之ヲ貸渡スベシ

但營業者ノ都合ニ依リ所有地ヲ他人ニ貸渡ストキハ該地接續ノ官有地ハ必ラス一時返納ノ上該地借用入ヨリ更ニ右官有地ノ借用ヲ願出ヘシ尤本條間敷ノ内道路ノ敷地ニ充ツルナアルベシ

第十六條

従前該地土着ノ人民ニシテ舊来之ヲ所有シ干場内
ニ住居ノモノニ限リ其制限ニ過ズルハ割干坪ニ割
百坪ノ割

第十七條

合以下ノ地ハ之ヲ所有スルヲ許スルシ
海産干場坪数ノ制限ハ居屋漁舍倉庫ノ敷地ヲ合セ
之ヲ算スルシ

但本條居屋漁舍等ノ敷地除租年限ハ地所規則第
一條ノ通リトスルシ

第十八條

海産干場所有ノモノ地所割渡ノ儘營業ニ着手セズ
シテ賣買讓渡スルヲ許サズ割渡ノ後一周年間着手
セザルモノ及ビ着手後中止スルモノハ上地申付
シ尤甲ニ於テ既ニ着手セル場所ヲ乙ニ賣渡シ乙ニ

於テ相當ノ營業ヲ為サ、ル致或ハ中止スルモノハ
土地賣買規則第三條ニ掲載セル地價上等ノ割ヲ以
テ之ヲ買上クハシ

乙亥百部抄卷之七

雇外国人宿代并旅費規則ノ義上申

雇外国人宿代旅費等支給ノ義ニ付明治六年九月沛下向ノ節當使管内八百事未夕便利ヲ得ナルニ付當分從前ノ通現費支給ノ答同年十月第百八十四号ヲ以テ上申致置候處漸次人煙繁殖道路開通行旅便利ニ相成候ニ付内務工部兩省雇外国人支給規則ヲ參酌シ宿代并旅費規則別冊ノ通相定^候施行可致^候現行條約期限中ノ者ハ從前ノ通取扱候義モ可有之候此段上申候也

明治十年十月十四日

院拓長官黑田清隆

開拓使